令和２年度の支部活動報告と今後

はじめに、端山昌夫氏が第 39 回令和 2 年度普及活動賞を受賞されました。永年、入門者や初級者の育成に貢献されてこられました。全国で 41 名の中のお一人です。誠におめでとうございます。

令和２年度は年初より新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ほとんど何もできない一年でした。「囲碁のある日常」のありがたさを改めて感じさせられました。総本山の日本棋院もイベントのほとんどが中止となり、4 月から 6 月の緊急事態宣言下では棋士の対局も停止したほどです。一方、プロ碁界では一力遼(天元・碁聖)、芝野虎丸(王座・十段)、井山裕太(棋聖・名人・本因坊)の三強時代に入ったようですし、女流碁界でも藤沢里奈女流本因坊が四冠を達する活躍や、つい今月、12 歳の仲邑菫初段が全日本早碁オープン戦予選で勝ち、昇段規定により史上最年少で二段昇格を決めるなど、囲碁ファンを楽しませてくれています。

一方、日本棋院の財政状況は昨年につづき厳しい状況にあり、昨年 9 末現在の会員総数は 24,787 名で前年比約 10%の落ち込みとなり、今年 9 月末ではコロナ禍も当分継続することを考えれば、さらなる落ち込みが予想されます。小林覚理事長を筆頭に抜本的見直しを期待いたします。
次に八碁連支部の状況につき報告致します。

大会については、7 月に予定していた第 7 回級位認定囲碁大会及び 8 月に予定していた第 2 回ペア碁大会はコロナウイルス禍により中止しました。指導碁については、10 月に甲田明子四段の指導碁を、11 月には熊丰七段による指導碁を実施し、合わせて 20 名の方が受講されました。知念かおり六段の指導碁も予定しましたが、手合い日と重なり中止としました。また、吉澤實八段、三島敏明七段を講師とする囲碁研究会を 10 月から 11 月にかけて 8 回実施しました。

今月 10 日に支部役員会を開き、会計監査役の吉澤實氏による令和２年度決算の承認を得たのち、来期の事業計画及び予算等を話し合いました。事業計画はコロナウイルス禍の鎮静化を想定して前年度計画と同じとし、それに伴った予算化を行いました。

他方、支部会員の状況は 2 月末時点で 38 名と少しずつ減少しています。それに伴い支部ポイントも減り、例えば棋士特別派遣の特典が得られる 150 ポイントの瀬戸際にあります。これを盛り返すため、次の施策を実施しますので、支部会員はもとより皆さんのご協力をお願いする次第です。

1. 新規支部会員(日本棋院会員)の獲得
2. 日本棋院会員の支部会員への移行
3. ネット碁の「幽玄の間」会員や「情報会員」の支部への登録
4. 普及指導員の支部への登録

また、月刊誌「囲碁未来」が発行部数の減少により来年 3 月で廃刊となります。これに伴い支部

の「囲碁未来」会員の方々には、今年の期間満了時に当方よりご相談させて頂きますが、是非、会員の継続をお願いする次第です。

　尚、総会の開催については、前年度はコロナウイルス禍により、書類決済とさせて頂きましたが、令和 3 年度からは、期首にこのような報告書を「八碁連だより」に掲載することで総会の開催、議案書の送付を止めることにしました。ご了承願います。毎期、議案書は作成しておきますので、ご所望も方はご連絡下さい。また、支部への要望等ありましたら、どしどしお寄せ下さい。

以上、よろしくお願い致します。

常任理事　南　正一郎　　TEL&FAX　663-5446　E メール sminami0003@yahoo.co.jp